

2.3 本格運用に向けた課題の整理

2.3.1 運用における課題

EADAS が保持している基盤（サーバ、OS、共有ミドルウェア等）を利用した WebGIS のデータ管理を想定すると、システム基盤や EADAS 基盤を共有して利用することになる。これらを運用している業者との連携が必要であり、それぞれの役割を明確にする必要がある。運用において想定される役割分担を表 2.3-1 に整理した。

表 2.3-1 運用において想定される役割分担表

項目	EADAS 運用業者	再エネ情報提供 サイト運用業者
システム基盤のハードウェア管理（故障対応等）	○	×
システム基盤のソフトウェア管理	○	×
OS 管理（セキュリティパッチ含む）	○	×
EADAS のデータ搭載検討	○	×
EADAS のデータ管理（データ追加・変更など）	○	×
再エネ情報のデータ搭載検討	×	○
再エネ情報のデータ管理（データ追加・変更など）	○	×
EADAS 搭載情報のうち、再エネ情報提供サイトで閲覧する項目に関する検討	×	○
再エネ情報提供サイト搭載情報のうち、EADAS で閲覧する項目に関する検討	○	×
EADAS の改修	○	×
再エネ情報提供サイトの改修	×	○
再エネ情報提供サイトへの問合せ	×	○

2.3.2 機能の課題

本年度の試作システムでは、EADAS 基盤を利用することを想定し、利用者が再エネ情報を取得するために操作する GIS のユーザインターフェースを主に作成した。今後実運用に向けて、再エネ情報提供システムに必要な機能のうち、EADAS が現在保有する機能だけでは実現が難しい機能と、今後の対策案を表 2.3-2 に示した。

表 2.3-2 再エネ情報提供システムに必要となる機能

機能名称	概要	対策案
GIS 情報の提供 (ダウンロード)	GIS データをダウンロードして解析用 GIS で扱えるようにする。EADAS に搭載している全国データは別途原典保有者がいるため、ダウンロード機能はない。	再エネ提供サイト独自に、ダウンロード可能なデータを準備する。
自治体情報の提供 (閲覧)	自治体個別の情報(導入実績、各種施策等)を GIS 上で表示する。	EADAS の改修により、データを搭載することもできるが、他データに埋没する恐れがあるため、試作した機能をさらに充実させることが望ましい。
自治体情報の取得 (ダウンロード)	自治体個別の情報をダウンロードして、解析用 GIS で扱えるようにする。	再エネ提供サイト独自に、ダウンロード可能なデータを準備する。
地域分析ツール	中小水力のポテンシャル解析ツールのような、各種分析ツール。	再エネ提供サイト独自に、GIS 上で利用可能な分析ツールを充実させる。
レイヤ情報取得機能	外部から、EADAS が保有するレイヤ情報を取得する機能。レイヤの表示制御やなどに必要となる。	EADAS 基盤を共通利用しているため、レイヤ情報を共通して管理できるよう検討する。